

富士フィルム 新日本石油に3生産拠点のエネルギー供給事業を全面委託

■富士フィルム 全面天然ガス化により、CO2排出量を約30%削減

■新日本石油 国内最大級の「天然ガスオンサイト発電設備によるBOO事業」を展開

記者各位

富士写真フィルム株式会社(社長:古森重隆、以下富士フィルム)と新日本石油株式会社(社長:渡文明、以下新日石)は、CO2排出削減のため燃料の全面天然ガス化を進める富士フィルムグループの3生産拠点へのエネルギー(電気、熱 計6万8千kW)供給事業を、新日石に全面委託することで合意致しました。

全面天然ガス化を推進するのは、印刷用刷版材料の製造工場である吉田南工場(静岡県榛原郡)、液晶ディスプレイの製造に欠かせない偏光板保護フィルム「フジタック」等の生産子会社である富士フィルムオプトマテリアルズ株式会社(社長:上原五郎、静岡県榛原郡)および富士フィルム九州株式会社(社長:山口光男、熊本県菊陽町)の3拠点で、新日石は2006年以降、3生産拠点向けエネルギー供給事業を順次開始する予定です。

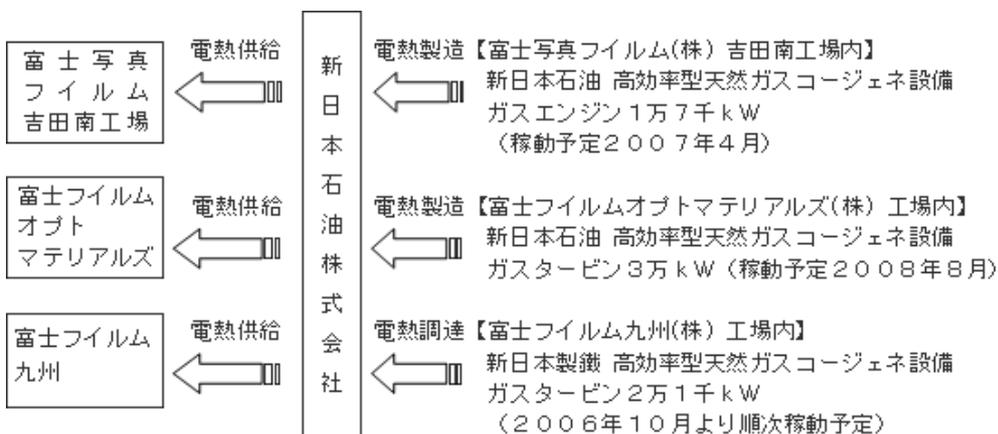
本事業は、※1高効率型天然ガスコージェネレーション設備及び天然ガスボイラー設備などを、富士フィルムの生産拠点内に設置し、電気、熱を供給するオンサイト型発電事業です。吉田南工場および富士フィルムオプトマテリアルズについては、LNG(液化天然ガス)の調達から、LNGサテライトタンク、高効率型天然ガスコージェネレーション設備などの設置・運転・管理までを新日石が全面的に行う、新日石初の※2BOO(Build Own Operate)事業となります。富士フィルムオプトマテリアルズに設置予定の3万kWの発電設備は、BOO事業としては、単一生産拠点で国内最大級のオンサイト発電設備となります。富士フィルムは、自家発電方式ではなくBOO方式を採用することで、エネルギー調達コストの低減と設備のオフバランス化を図ります。尚、富士フィルム九州については、オンサイト発電事業者である新日本製鐵株式会社(社長:三村明夫氏)から、新日石が電気、熱を調達し、富士フィルム九州へ供給することで検討を進めております。

富士フィルムは、本事業の推進により、CO2合計排出量を、全設備が稼働する2010年度予測で、燃料転換未実施の場合と比較して約30%削減する計画です。富士フィルムは、重油から天然ガスへの燃料転換を順次推進しており、既に実施済みの富士宮工場(2003年2月)、小田原工場(2004年2月)、足柄工場(2004年5月)に続き、3生産拠点でも天然ガス化を推進することで、国内の化学系主要6工場のすべてに天然ガスが採用される見通しとなりました。

富士フィルムは、今後も環境諸課題に対する確実で一歩先行した取り組みにより、製品・サービス・企業活動における高い「環境品質」を実現することで顧客満足を達成するとともに、21世紀の地球企業にとって最重要課題である「持続可能な発展」に積極的に貢献してまいります。

新日石は、本事業が大手企業におけるエネルギー(電気、熱)供給業務の、一括したアウトソーシング事例として国内最大級の規模であることから、エネルギー供給に関する新たなビジネスモデルとして、先進かつ波及効果の高い有意義な意味を持つものであると考えております。今後とも、新日石はエネルギーの多様化が進展する中で、お客さまの様々なニーズに対応すべく多様なエネルギービジネスを育成・推進し、「総合エネルギー企業」の実現を目指していきます。

事業概要



※1 高効率型天然ガスコージェネレーションとは、天然ガスを燃料として発電効率の高いガスエンジンやガスタービンにより発電を行ない、その際に発生する排熱を蒸気や温水などで回収し、有効利用する熱電併給システムのこと。

※2 BOOとは、「Build Own Operate」の略で、通常のオンサイト事業とは異なり、運転管理まで事業者が実施するオンサイト事業のこと。

本件に関する報道関係のお問い合わせ先

富士写真フイルム株式会社 コーポレートコミュニケーション部 広報部	03(3406)2490
新日本石油株式会社 広報部 広報グループ	03(3502)1124

以上